

国語科教育研究部

【平成24年4月現在】

主任 地主 尚子

部員 松田 竜大 田澤 真也子

研究主題 理解力・表現力を高める国語科教育
～子どもたちが、主体的に取り組める言語活動を生かした国語科授業～
めざす子ども像

思考・判断したことをもとに、自分の言葉で思いや考えを表現することのできる子ども

研究目標 国語科教育において、子どもたちの理解力・表現力を高めることのできる授業の在り方を明らかにする。

研究仮説 国語学習の中に、子どもたちが主体的に取り組むことのできる言語活動を設定することで、思考・判断したことを自分の言葉で表現する子どもが育つ。

主題設定の理由

1 国語科に求められる力

「学習指導要領解説国語編 国語科改訂の要点」では、国語科の目標として、表現力と理解力の育成、そして互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝え合う力」を高めることが位置付けられている。これは、OECD（経済協力開発機構）のPIISA調査などの各調査で明らかになったように、我が国の子どもたちに、思考力・判断力・表現力を育成する必要性があるという現状から位置付けられたものである。

本校の子どもたちの学習の様子から見ると、文章を読み、課題に沿って書かれている内容を正しく読み取ることは容易にできるが、読んだことをもとに自分の考えをもち感想や意見を述べたり、文章に書き表したりといったことを苦手とする子どもたちの姿が見られる。このような実態から、本校の子どもたちにも思考力・判断力・表現力を養う必要性があると考えた。

2 評価を生かしながら理解力・表現力を高める言語活動

学習の中に言語活動を位置付けて指導することは、全教科において取り組むべき重要な課題である。本研究部では、言語活動を学習の中に位置付ける場合、子どもたち自身が知りたい、学びたいという主体的な意欲をもち取り組むことのできる学習を設定することが、理解力・表現力を養うために必要と考えた。

言語活動を設定する場合、単に活動だけを示すのでは、活動することが目的となってしまう、子どもたちに理解力・表現力を身に付けさせることにはならない。そのため、言語活動を通して思考・判断するようになるために、思考し理解するための筋道や方法が明確に示された言語活動を設定する。また、言語活動を学習の中に位置付けることは、子どもたちが身に付けた力を把握し評価する手立てとなる。言語活動を通して把握した子どもたちの実態は、次の学習を構想するうえで課題となるものである。

3 言語活動を設定する際の工夫

理解力・表現力を高めるために、子どもたちが主体的に取り組むことのできる言語活動を設定する有効な手がかりとして、以下に示す二つの観点を学習に取り入れる。

一点目は、単元において到達させたい学習の姿を明確に示すことや、毎時間の学習で取り組ませる言語活動の目的を提示することである。目標となる言語活動を具体的に示すことで、子ども自身の学習目的を明確にすることができる。また、毎時間の学習でも明確な目的を位置付けた言語活動を取り入れることで、一時間ごとに達成する目標をもたせ、子どもたちに意欲をもって学習に取り組むようにすることができる。

二点目は、読みの手がかりとして、言語活動の中に比較・選択・統合といった読みの観点や方法を示すということである。比較とは、教材に書かれている内容の違いや同じところを読み取らせることができる方法である。複数の教材を比較させることで、書き手の意図や書きぶりを読み取らせることができる。また、選択とは、多くのものの中から選ぶという学習である。この学習では、選択させることで自分の意図を明確にもたせ、選んだ理由について説明させることができる。自分の考えを表現させることで、自分の考えをより明確にもたせることができると考える。統合に関しては、複数の文章を一つの文章にまとめさせることで、文章の内容や構成を考えさせることができる。つまり、異なる文章同士を読み比べることで、同じ内容につ

いて書かれているが違う表現で書かれていたり，異なる文章表現であるが，同じ内容について書かれていることなどに気付かせることができるのである。このような読みの観点を示すことで，本文の読み方を把握させる。そして，思考・判断したこと生まれた思いや考えを，共通の読みの観点をもち話し合ったり書かせたりさせることで，自分の言葉を用いて伝え合うことができるようになるのである。

本研究部では，上記のように子どもたちが主体的に取り組むことのできる言語活動を設定することで，子どもたちの理解力・表現力を高めることになると考え，授業を構想する。

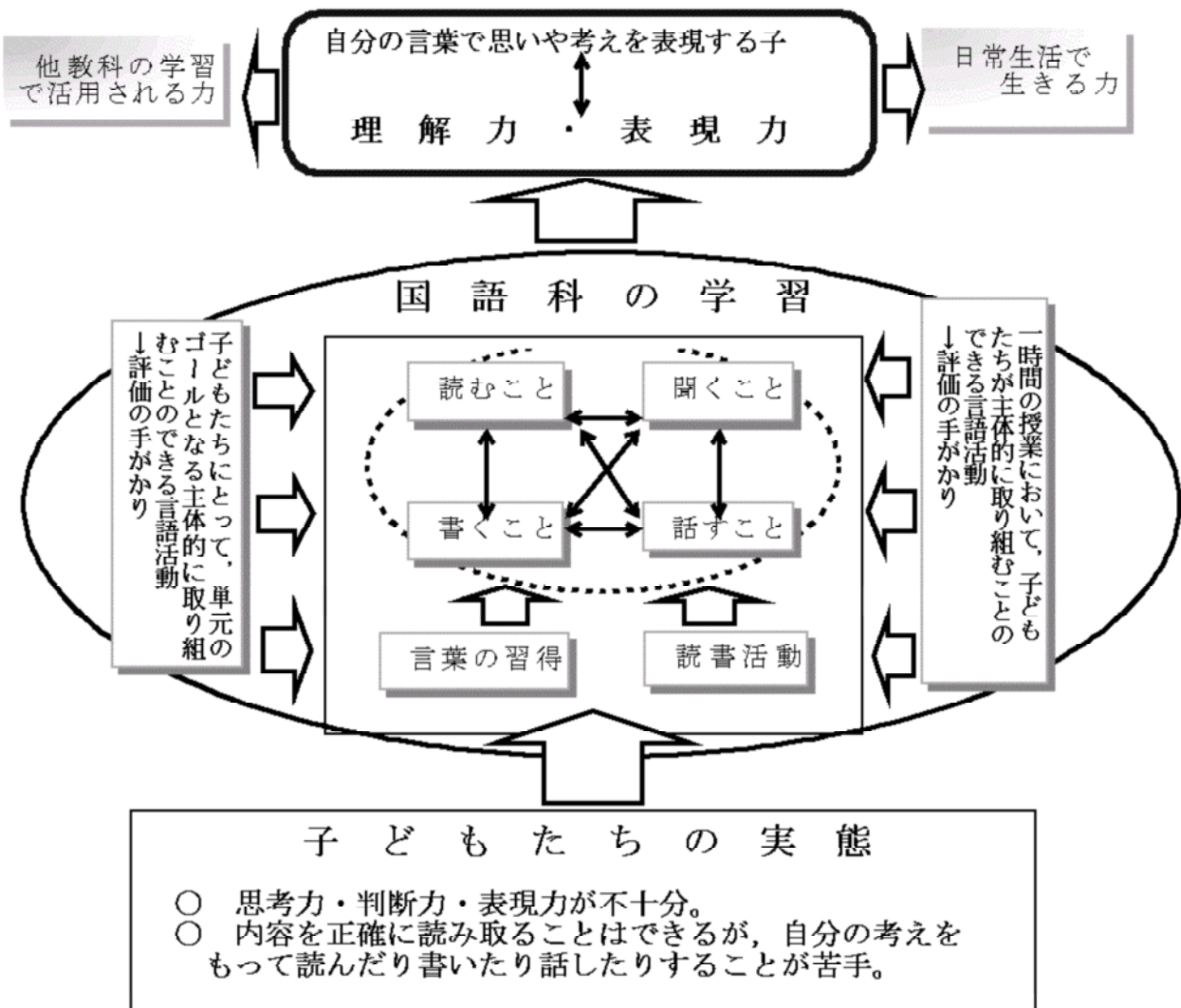


図 理解力・表現力を高める国語科教育の構想図

研究内容

国語の学習を通して理解力・表現力を高めるために，以下の内容を研究内容として取り上げる。
 子どもたちが主体的に読むことのできる理解力と表現力を関連させた言語活動の在り方
 思考・判断・表現させるために提示する読みの観点と方法

研究方法

学習の中に，子どもたちが主体的に読むことのできる理解力と表現力を関連させた言語活動を取り入れることが理解力と表現力を育むことに有効であるか，以下の手立てをもって検証する。

仮説をもとにした授業の実践

言語活動を通して評価した子どもの姿と評価の結果を生かした学習方法の確立と実践

分析結果をもとにした仮説の精査